

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2021年1月29日
【四半期会計期間】	第32期第3四半期（自 2020年9月21日 至 2020年12月20日）
【会社名】	株式会社アジュバンコスメジャパン
【英訳名】	A D J U V A N T C O S M E J A P A N C O . , L T D .
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 中村 豊
【本店の所在の場所】	神戸市中央区下山手通五丁目5番5号
【電話番号】	078(351)3100（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部本部長 中川 秀男
【最寄りの連絡場所】	神戸市中央区下山手通五丁目5番5号
【電話番号】	078(351)3136
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部本部長 中川 秀男
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第31期 第3四半期連結 累計期間	第32期 第3四半期連結 累計期間	第31期
会計期間	自 2019年3月21日 至 2019年12月20日	自 2020年3月21日 至 2020年12月20日	自 2019年3月21日 至 2020年3月20日
売上高 (千円)	3,618,542	3,752,749	4,674,081
経常利益又は経常損失 () (千円)	53,024	271,275	157,692
親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期 (当期)純損失 () (千円)	85,708	104,639	227,928
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	89,293	106,302	239,066
純資産額 (千円)	4,273,752	4,051,065	4,123,980
総資産額 (千円)	5,470,085	5,320,795	5,250,788
1株当たり四半期純利益又は1株当 たり四半期(当期)純損失 () (円)	10.77	13.10	28.63
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	-	13.06	-
自己資本比率 (%)	78.1	76.1	78.5

回次	第31期 第3四半期連結 会計期間	第32期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 2019年9月21日 至 2019年12月20日	自 2020年9月21日 至 2020年12月20日
1株当たり四半期純利益 (円)	14.39	24.89

(注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第31期第3四半期連結累計期間及び第31期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、当社の連結子会社であった株式会社アジュバンコスメティックは、2020年3月21日付で当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により依然として厳しい状況にあります。社会経済活動に持ち直しの動きもみられますが、新型コロナウイルス感染症の再拡大が懸念されており引き続き国内外の動向に留意が必要な状況です。

美容業界におきましても、外出機会が減少しているため美容に対する需要が戻らず、サロン^{注1}の来店客数の回復が鈍化しており、当社商品を販売するアジュバンサロン^{注2}においても同様の影響がでております。

このような状況のもと、当社グループは、2021年3月期の営業テーマを「顧客の創造・関係性の強化」とし、営業方針を「年間販促計画の策定と実行」「カウンセリングの知識・技術の習得」「アフターフォローの習慣化」「顧客分析の徹底」として掲げ、サロンの安定した経営サポートを目指しております。

新型コロナウイルス感染症の感染予防及び感染拡大防止に関しましては、当社が定めた「新型コロナウイルスに関する指針」を遵守し、通常の対面営業からZoom等のWeb会議システムを活用する等、感染拡大の防止に十分注意しながら営業活動を推進し、昨年10月には新ヘアケアブランドとして「KASUI（カスイ）」^{注3}及びシステムトリートメント「Jalire（ジャリル）」^{注4}を発売いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,752百万円（前年同期比3.7%増）となりました。詳細は区分別売上高の概要をご参照ください。なお、アジュバンサロン登録軒数につきましては、当第3四半期連結会計期間末で8,252軒（前期末比457軒増）となりました。

利益面では、新製品の投入効果による売上の増加及び人件費や旅費交通費等の減少により、営業利益254百万円（前年同期は営業損失80百万円）、経常利益271百万円（前年同期は経常損失53百万円）となりましたが、第2四半期連結会計期間に特別損失として投資有価証券評価損100百万円を計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は104百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失85百万円）となりました。

区分別売上高は、売上割戻金を含めて次のとおりであります。

区分	前第3四半期連結累計期間		当第3四半期連結累計期間		増減額	増減率
	金額（百万円）	構成比（%）	金額（百万円）	構成比（%）	金額（百万円）	（%）
スキンケア	1,446	40.0	1,249	33.3	196	13.6
ヘアケア	1,831	50.6	2,106	56.1	275	15.0
その他	624	17.3	678	18.1	53	8.5
売上割戻金	284	7.9	281	7.5	2	-
合計	3,618	100.0	3,752	100.0	134	3.7

(注) 1. エクシードシステム株式会社（連結子会社）、ADJUVANT HONG KONG COMPANY LIMITED（連結子会社）の売上高は、「その他」に含んでおります。

2. 売上割戻金は、商品ごとではなく売上高の合計を基準として割戻率を設定しているため、区分ごとに配賦せず合計額で表示しております。

国内海外別売上高は、次のとおりであります。

区分	前第3四半期連結累計期間		当第3四半期連結累計期間		増減額	増減率
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	(%)
国内売上高	3,435	94.9	3,608	96.2	172	5.0
海外売上高	183	5.1	144	3.8	38	21.1
合計	3,618	100.0	3,752	100.0	134	3.7

当社グループは、単一セグメントであるためセグメント別の記載はしていませんが、区別売上高の概要は以下のとおりであります。

(スキンケア)

スキンケア商品の売上高は、スキンケアに対する需要の減少が続いており、全体的に計画を下回る結果となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,249百万円(前年同期比13.6%減)となりました。

(ヘアケア)

ヘアケア商品の売上高は、既存商品である「Re:»」の「ベーシックライン」、「クラスSライン」の販売は計画を下回る結果となりましたが、新商品である「KASUI(カスイ)」の投入効果もあり、前年を上回る結果となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,106百万円(前年同期比15.0%増)となりました。

(その他)

エクシードシステム株式会社(連結子会社)の売上高は、国内のサロンアンサーシステム^{注5}の導入件数が、当第3四半期連結会計期間末において1,349件と堅調に推移した結果、増加いたしました。

ADJUVANT HONG KONG COMPANY LIMITED(連結子会社)の海外売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い減少しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は678百万円(前年同期比8.5%増)となりました。

注1「サロン」

理美容室・エステティックサロン・ネイルサロン・アイラッシュサロン・美容クリニック等を指します。

注2「アジュバンサロン」

初回に100千円以上の仕入を行い、当社グループが指導する商品の案内方法等を定めたアジュバンサロン契約を締結したサロンを指します。

注3「KASUI(カスイ)」

国立研究開発法人理化学研究所との共同研究により毛髪と機能性成分を見出し、その後当社にて処方した新ヘアケアブランドであります。

注4「Jalire(ジャリル)」

毛髪の内部補修により扱いやすい髪質に近づけるシステムトリートメントであります。

注5「サロンアンサーシステム」

エクシードシステム株式会社(連結子会社)が販売する、クラウド型経営サポート(サロンの顧客管理、経営分析)システムを指します。

財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して70百万円増加し、5,320百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して192百万円増加し、2,939百万円となりました。主な変動要因は、現金及び預金の減少322百万円、売掛金の増加327百万円、商品及び製品の増加107百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して122百万円減少し、2,380百万円となりました。主な変動要因は、減損処理などによる投資有価証券の減少95百万円によるものであります。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して98百万円増加し、757百万円となりました。主な変動要因は、賞与支給による賞与引当金の減少53百万円、未払法人税等の増加35百万円、未払金等の増加に伴う流動負債のその他の増加138百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して44百万円増加し、511百万円となりました。主な変動要因は、長期借入金の増加40百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比較して72百万円減少し、4,051百万円となりました。主な変動要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益による増加104百万円、配当金の支払による減少191百万円によるものであります。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、112百万円であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	22,000,000
計	22,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年12月20日)	提出日現在発行数(株) (2021年1月29日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,996,200	7,996,200	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	7,996,200	7,996,200	-	-

(注) 1. 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社の標準となる株式であります。

2. 「提出日現在発行数」欄には、2021年1月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年9月21日～ 2020年12月20日	-	7,996,200	-	765,630	-	725,562

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2020年9月20日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2020年12月20日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 6,400	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 7,987,900	79,879	(注1)
単元未満株式（注2）	普通株式 1,900	-	-
発行済株式総数	7,996,200	-	-
総株主の議決権	-	79,879	-

(注) 1. 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社の標準となる株式であります。なお、1単元の株式数は、100株であります。

2. 「単元未満株式」の欄には、当社保有の自己株式3株が含まれております。

【自己株式等】

2020年12月20日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社アジュバンコスメジャパン	神戸市中央区 下山手通5丁 目5番5号	6,400	-	6,400	0.08
計	-	6,400	-	6,400	0.08

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2020年9月21日から2020年12月20日まで）及び第3四半期連結累計期間（2020年3月21日から2020年12月20日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月20日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,478,313	1,156,248
売掛金	454,938	782,865
商品及び製品	638,440	746,406
仕掛品	21,532	40,399
原材料及び貯蔵品	76,851	76,783
その他	82,337	146,062
貸倒引当金	4,606	8,831
流動資産合計	2,747,807	2,939,934
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,137,993	1,145,397
土地	720,678	720,678
その他	456,489	468,039
減価償却累計額	651,458	698,822
有形固定資産合計	1,663,703	1,635,292
無形固定資産		
投資その他の資産	46,185	74,074
投資有価証券	526,869	431,143
その他	282,184	257,051
貸倒引当金	15,962	16,700
投資その他の資産合計	793,091	671,493
固定資産合計	2,502,980	2,380,860
資産合計	5,250,788	5,320,795
負債の部		
流動負債		
買掛金	132,297	125,439
1年内返済予定の長期借入金	17,755	2,780
未払法人税等	9,254	44,662
賞与引当金	104,873	51,089
その他	395,244	533,946
流動負債合計	659,425	757,917
固定負債		
長期借入金	-	40,000
退職給付に係る負債	43,421	46,970
資産除去債務	15,342	13,605
長期未払金	384,470	384,470
その他	24,148	26,765
固定負債合計	467,382	511,812
負債合計	1,126,808	1,269,729

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月20日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月20日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	759,671	765,630
資本剰余金	731,374	737,334
利益剰余金	2,648,728	2,562,232
自己株式	5,833	5,833
株主資本合計	4,133,941	4,059,364
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,388	8,716
為替換算調整勘定	1,427	418
その他の包括利益累計額合計	9,960	8,298
純資産合計	4,123,980	4,051,065
負債純資産合計	5,250,788	5,320,795

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年12月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月21日 至 2020年12月20日)
売上高	3,618,542	3,752,749
売上原価	1,475,772	1,471,162
売上総利益	2,142,770	2,281,587
販売費及び一般管理費	2,223,393	2,026,892
営業利益又は営業損失()	80,622	254,694
営業外収益		
受取利息	1,954	2,048
受取配当金	22,663	2,174
受取家賃	1,350	1,350
助成金収入	557	11,872
貸倒引当金戻入額	-	1,238
雑収入	2,011	3,383
営業外収益合計	28,537	22,067
営業外費用		
支払利息	160	39
為替差損	775	5,446
雑損失	2	-
営業外費用合計	938	5,485
経常利益又は経常損失()	53,024	271,275
特別利益		
ゴルフ会員権売却益	-	811
特別利益合計	-	811
特別損失		
固定資産除却損	2,811	1,233
投資有価証券評価損	-	100,079
その他	-	226
特別損失合計	2,811	101,539
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	55,835	170,547
法人税、住民税及び事業税	21,551	36,377
法人税等調整額	8,321	29,530
法人税等合計	29,872	65,907
四半期純利益又は四半期純損失()	85,708	104,639
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失()	85,708	104,639

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年12月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月21日 至 2020年12月20日)
四半期純利益又は四半期純損失()	85,708	104,639
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,053	2,672
為替換算調整勘定	1,531	1,009
その他の包括利益合計	3,585	1,662
四半期包括利益	89,293	106,302
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	89,293	106,302
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

当社の連結子会社であった株式会社アジュバンコスメティックは、2020年3月21日付で当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う会計上の見積りについて)

当社グループでは、固定資産の減損会計や繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りについて、連結財務諸表作成時において入手可能な情報に基づき実施しております。

新型コロナウイルス感染症の収束時期など正確に予測することは、困難な状況となっておりますが、当第3四半期連結累計期間における新型コロナウイルス感染症の感染拡大による当社グループ事業への影響は限定的であったため、将来においても影響は限定的であると仮定し、会計上の見積りを行っております。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による経済環境に変化が生じた場合は、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年12月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月21日 至 2020年12月20日)
減価償却費	86,713千円	81,677千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2019年3月21日 至 2019年12月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月14日 定時株主総会	普通株式	190,934	24	2019年3月20日	2019年6月17日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年3月21日 至 2020年12月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月18日 定時株主総会	普通株式	191,135	24	2020年3月20日	2020年6月19日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2019年3月21日 至 2019年12月20日)

当社グループは、アジュバン化粧品の商品企画、研究開発、販売及びこれに附帯するサービス業務を営む単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年3月21日 至 2020年12月20日)

当社グループは、アジュバン化粧品の商品企画、研究開発、販売及びこれに附帯するサービス業務を営む単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年12月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月21日 至 2020年12月20日)
(1) 1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失 ()	10.77円	13.10円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	85,708	104,639
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	85,708	104,639
普通株式の期中平均株式数(株)	7,960,118	7,986,044
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	-円	13.06円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	28,480
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

(持株会社体制移行に伴う会社分割)

当社は、2021年1月22日開催の取締役会において、2021年9月21日を目途に会社分割の方式により持株会社体制へ移行するための検討を開始することを決議いたしました。

なお、持株会社体制への移行につきましては、2021年6月中旬に開催予定の第32期定時株主総会における関連議案が承認可決されること及び所管官庁等の許認可が得られることを前提条件といたします。

1. 持株会社体制への移行の目的

当社は、「美と健康を通じて 夢と感動をお届けする」との企業理念のもと、美容室・理容室・エステティックサロン等を通じて化粧品を消費者の皆様にお届けしております。

また、2015年より2019年まで国立研究開発法人理化学研究所及び株式会社オーガンテクノロジーと共同研究を行う等、研究開発にも力を入れ事業の拡大を目指してまいりました。

今後、当社が事業を拡大し、企業価値の向上を図るためには、コーポレート・ガバナンスを強化しつつ、各事業会社の役割を明確にし、経営資源の配分の最適化を進め、意思決定の迅速化を図ることが必要であると考え、経営管理体制を再構築するために、持株会社体制への移行について検討を開始することといたしました。

なお、当社は持株会社体制への移行目的を鑑み、取締役会による監督機能を強化する等コーポレート・ガバナンス体制をより一層充実させ、企業価値の向上を図るために監査等委員会設置会社へ移行を予定しております。

2. 持株会社体制への移行方法

株式会社アジュバンコスメジャパンを会社分割の方式により、持株会社と事業会社に分割し、当社グループは持株会社体制へ移行し、当社は引き続き上場を維持することを想定しております。

3. 持株会社体制への移行時期

2021年6月中旬に開催予定の第32期定時株主総会の承認及び必要な関係当局の許認可等が得られることを前提として、2021年9月21日を目途に持株会社体制へ移行することについて検討を進めてまいります。

持株会社体制への具体的な移行方法や日程等の詳細につきましては、決定次第速やかにお知らせいたします。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年1月29日

株式会社アジュバンコスメジャパン
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西野 尚弥 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小林 雅史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アジュバンコスメジャパンの2020年3月21日から2021年3月20日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2020年9月21日から2020年12月20日まで）及び第3四半期連結累計期間（2020年3月21日から2020年12月20日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アジュバンコスメジャパン及び連結子会社の2020年12月20日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。